

まことと会便り

2015/11

祝っておりますのです。

みなさまいかがお過ごしでしょうか。

先日の報恩講での吉崎先生のご法話。またひとつ味わい深く聴かせていただきました。

—先に生まれんものは後を導き、

後に生まれんひとは先を訪へ

— 教行信証後序（最後）より

「訪う」とは申うこと。申うとは先人の思いを引き継ぎ、そのみあとを慕うことです。つまり、私たちのいのちは自分一代の命ではない。次の者へ引き継がれるいのちだということ。終わることのないのちである。

私たちは死ぬことを終わりと考えがちです。終わるから恐ろしい。終わってしまった後には何もないから。しかし、終わらない命だと捉えれば、その後にはまだ続きがあります。後の者に引き継ぐいのち。だからこそ、怖がるのではなく大切に生きなくてはなりません。

—先祖は過去のものにあらず—

先に往生された方は仏となつて私たちを助けるお手伝いをなさっています。私たちが救っていただくのは未来のこと。先祖の方々は過去にとどまっておられるのではなく、未来に

行事予定



十二月十一日（金） 一時半より

ユガの会 光圓寺 本堂

平成二十七年

一月十四日（木） 一時半より

光圓寺 御正忌法曹 光圓寺 本堂

講師 前任職 飯田耀朗師

*法要終了後、おぜんざいの接待があります

一月二十七日（水） 十一時より

まこと会 新年会

御正忌法曹と新年会のご案内は改めて発送致します

皆さまのご参加をお待ちしております！

報恩講 ありがとうございます

去る十月二十二日に光圓寺報恩講が勤まりました。今年もまた、多くの皆さまにお参りいただき、お齋の膳に一緒につくことができました。今年からすべて椅子席にさせていただきましたが、みなさまいかがでしたでしょうか？

今年のお齋は、南観音東地区の方々にご接待くださいました。新しい若い力も加わり、頼もしく、嬉しいことでした。

お世話の皆さまどうもありがとうございました。



南観音東地区の皆さま

【報恩講・秋季永代経法要 坊守覚え書き】

* 「苦」とは・・・

私たちの苦しみは、二人称の苦しみ。人への情によって生じます。

仏教では生きている私たちのすべてのことは、「縁」によって生じると考えます。縁起と言いますが、私たちは日常的な関係を持つことで、情が関わり、愛したり憎んだりと気持ちが動くのです。

老いも病もつらいけれど、それも自分と受け容れていくしかない。それでも悩み苦しむのは、家族に迷惑をかけたくないから。自分も苦しみたくなければ、家族の苦しむ姿も見たくない。情が深ければ深いほど「苦」も深くなる。

「苦」を大きく分けて四苦八苦。生・老・病・死の四苦に加えて

愛別離苦・・・愛するものと別れる

怨憎会苦・・・怨み憎む人と会う

求不得苦・・・求める者が得られない

五蘊盛苦・・・人間の身体と精神が思うようにならないことを加えて八苦。

これらの思うようにならない苦しみを私たち皆知っています。「苦」の感覚を知っているからこそ、そこから抜け出したいと願うのです。抜け出したい

抜け出したいと願いながらも、凡夫の私たちではどうにも抜け出せない。だからこそ、そこからひときらいに救い出して下さる阿弥陀さまのおはたらきに感謝の念が生じるのです。

一切皆苦を知るがゆえに 極楽浄土を求めなん

「苦」を知る人ほどありがたい。仮にそれを全く知らない人、全く感じない人にとって「苦」は無いのかも知れません。しかし、人として生きていく中で「苦」を感じることは避けられません。どうやっても思い通りにならないという「苦」の存在に向き合ったとき、生きていく限りはそれがどこまでもあるのだということに目覚めるのです。

知れば知るほど苦しくなる。苦しければ苦しいほど阿弥陀さまのおはたらきの有り難さを感じることができるよう。そこに「ご恩」感謝の気持ちが生まれます。その感謝の気持ちがお仏壇に向かう気持ちなのです。

難しくあれこれ考える必要はありません。静かに手を合わせ、ただ、惚れ惚れと拝みましょう。

